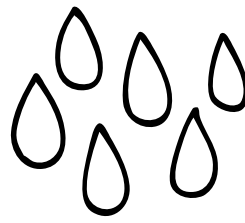


帝王学を志すリーダーのための
情報誌



2023年11月号

vol.26

KISUI
no INOSHISHI
癸亥

発行元：Mikoto, Inc.
211 East 43rd Street, #1103
New York, NY 10017
ny@mikoto-inc.com



みことTIMES



特集：あなたにとってMikotoとは？

ごあいさつ

Mikoto, Inc. 代表
Yumiko Shito

みことイベント
SCHEDULE

帝王学を志す
リーダーたちの
イベントのご案内

11月 癸亥月
のポイント

ポイントを意識することで、
自然との調和、運気の流れを
感じてみてください

PHOTO BY TAKAKO KAWANA

マンハッタン東端にある国連本部。周辺ではパレスチナ、イスラエル双方の支持者がデモを行ない、一触即発の状況。この虹が私達に伝えるメッセージとは？

みことTIMES

2023年11月号

vol.26

KISUI
no INOSHISHI

癸亥

03 ごあいさつ

・ マダムYumikoのつぶやき

純粋性を保つ～よりよい地球のために～

04 特集：あなたにとってMikotoとは？

07 帝王学レポート

・ English phrases which give us courage

・ 茶道と陰陽五行 ～東寺～

08 ・ カウンセラーから見える景色 ～最終話～

・ 滞泥（えんでい）のひとこと from 45th

～ 5時間と15分と～

09 ・ マンダラと帝王学

・ World Scopes ～Paris, France～

10 ・ My Another Sky

11 コラム：五行を読み解く先にあるもの

<最終話>

2023年11月癸亥月 生き方のポイント

編集後記

12 みことTIMES表紙コレクション

<ごあいさつ>

みことTIMESを振り返って



Mikoto, Inc. 代表
紫藤由美子

みことTimesにまつわる歴史を思い出していました。

2018年にNYで始まった帝王学スクール。

2019年2月11日には、みことTimesの前身である[帝王学・今週のひとこと]がWeeklyのメルマガとして始まりました。

そこから、NYのラジオで帝王学の番組を持たせていただいたり（まだアーカイブで視聴できるようです）、地元コミュニティ誌でコラムを書かせていただいたり、多くの人に帝王学を知っていただく機会を得ました。

そして、2021年10月、新たに生まれたのが、この[みことTimes]です。

今月号で、その幕を下ろすことになりました。

奇しくも、今月は「癸亥」60番干支。60周期の60番目となり、物事の最後を意味します。

美しい終わり方ですね。

多くの創造的な、大変な、刺激的な、楽しい、嬉しい、思い出が詰まったみことTimesです。

これは多くの方たちの協働、協力なしにはできなかったことです。

ここまで作ってくださってありがとうございます。

そして、ここまで読んでくださったみなさま、本当にありがとうございました。

水性エッセイ マダムYumikoのつぶやき 純粋性を保つ ～よりよい地球のために～

Posted by Yumiko Shito

エグゼクティブコーチ & アドバイザー

グローバル金融企業を経て、起業。ニューヨークと東京を行き来しながら、組織CXO向け、エグゼクティブ・エデュケーションを展開している。

帝王学と出会い、この学びが世界に広がり地球平和につながることを願っている。

赤ちゃんは多くの人を幸せにしますね。

存在するだけで周囲は癒され、愛を感じ、笑顔になります。

これは赤ちゃんの持つ純粋性に他なりませんね。

このような純粋性や無垢な心は、実は社会に影響を与えてもいます。

人々を引き寄せ、人と人を繋ぎ、コミュニティさえ作ることもあります。年齢を経るごとに、親からの刷り込み、学校での教育、メディアからの情報など、多くの情報もたらされます。

その中で、私たちは知恵とともにさまざまな感情を持つようになります。

溢れる情報や、今の時代に存在する価値観などによって、他者と自分を比較したり、優劣の意識が生まれたりする中で、対立が生まれたり、自己肯定感、自分の存在価値が下がったりすることも多くあります。私たち人間が持つ感情の中でも、私たちをもっとも苦しめるのは、恐れ、不安、怒り、憎しみ、恨み、エゴといったネガティブな感情です。このようなネガティブな感情はとても重く、私たちの意識を引っ張ります。今の時代必要なことは、赤ちゃんのような純粋性の意識がとても大事。

これは無知でいるということではなく、行動の源泉が純粋なものであることが必要、ということ。今こそ私たち一人一人の意識の変容・変革が必要で、その変容とは、恐れや不安や怒りや憎しみや恨みなどに基づいた行動ではなく、共感や受容や愛に基づいた行動になっていくことなのだと思います。

その先には、対立ではなく協働、競争ではなく共創（協奏）があると信じています。

これが、今私たちが、これからの地球のためにできことなのかな、と。

よりよい地球のために祈りを捧げます。

みことTIMESでは

帝王学を通じて生き方・あり方を探究している同志が中心になって

グローバルな視点での情報やエッセイをお届けしています。

帝王学は、後悔なき人生を送るための人生の羅針盤です。

世界中、一人でも多くの人に知っていただき、

幸せを体感できる世界の実現を目指してきました。

今月号が最終号となります。ご愛読ありがとうございました。

特集 ☆ あなたにとって Mikotoとは？

次のトランスフォーメーションに向けて、
Mikotoについて、総振り返りをしました！

あなたにとってMikotoとは？ #1 『地球上唯一の場』

「2021年4月とある方からのご縁でNY塾に導かれました。Mikotoという場を作ってくださったこと、素晴らしい体験をさせていただいたこと、なんと感謝を表現したら良いのかわからないくらい気持ちが溢れています。これまで学生時代から長い間、どんなコミュニティでもだいたい浮いてしまって、落ち着かず居心地の悪さを感じていました。誰とも心通じ合う感覚がない人生でした。このグローバルコミュニティではじめて、毎回心踊るような、芯から同意！みたいな体験が私にとってかなり衝撃でした。毎回初めて聞くような話があったり、概念がどんどん変わるような発見があったり、ド龍高星の私にとって最高に刺激的な場です。それと同時になんの先入観もなくジャッジもなくそのままを受け入れてもらっている安心感もあり。自分が変化し続けると同時に、私のままで居ることもまた楽しめるような不思議な場所。つまり、Mikotoって地球上唯一の場なんです。

Posted by Satomi Sugahara

あなたにとってMikotoとは？ #2 『神様からの贈り物』

MIKOTOとは神様からの私への贈り物だと思っています。人生の中で最も精神的に厳しい時間にミコトタイムスが始まり、精神的な切り替えをとイベントに参加する中で参加者の皆様から大きな力と励ましを頂き、人生とは何か、五徳とは何かを深く考える機会になりました。考える中で私なりの答えと私が今後行う使命も新たに知り事が出来たと思っています。紙上における投稿者の内容からも新たな視点を持つ事が出来、非常に有意義な時間となりました。今での人生を振り返ると節目節目で将来必要な事を学ばされてきたと思っています。まさしくMIKOTOは私の為に神様が用意してくれた人生の最終ステージに向かう為に必要なピースだったと。この期間で学んだ事をこれからの人生に生かし、出来るだけ多くの人に伝えればと思っています。MIKOTOをとおして教えられた言葉『感謝』と『すべては神のみぞ知る』で最後の投稿とします。関係者の皆様の多大な貢献に心より感謝致します。

Posted by Fuminori Yokoyama

あなたにとってMikotoとは？ #3 『旅の途中』

家族を亡くし人生の分岐点に立っていた、この時期に『ミコト』と出会ったのは、まさに人生の新たなフェーズのはじまりでした。初めは海外に散らばる仲間にオンラインの繋がりは『本当の気持ち』は伝わり難いと思っていました。しかし回数を重ねるたびに、皆それぞれの人生を生きる姿に刺激され、慰められ、受容してもらい、心の何処かで繋がりができてきた様な気がしました。きっとその証拠は公の場がなくなっても自主的に毎週の様子に語る場を皆が『作っていた』からだと思います。そのおかげで言葉の節々に微細な『心の変化』等も捉え合う事が出来るようになり信頼関係が生まれ深まって来たのだと思います。今では誰かが日本に帰国すると、何処からともなくワラワラと集まり旅をも共にする、かけがえのない『繋がり』がとても豊かに生まれて来ています。日々新たな発見をくれるこの繋がりに感謝しかありません。このミコトを通して『人生』と言う『旅』を共にする仲間に出会えた事。ここからの旅路さて何が始まりますやら。

Posted by Ayumi Ogawa

あなたにとってMikotoとは？ #4 『終わりは始まり』

Mikotoとの関係が始まったのは2021年7月。「NY塾」というユニークな学びの場にご招待を受け、十数回に亘るZoomセッションを通じて30人ほどの方々と親しくなる機会をいただきました。当時アメリカワシントン州に駐在中でしたが、NY塾のメンバーは日本、アメリカ、アジアに広がり、一言持った方も多く正に多士済々。そのような皆さんと出会えた貴重な場でした。2022年2月からは「みことタイムズ」で「淵泥のつづやき」というコーナーを担当し、思ったこと、感じたことを寄稿してきました。この最終号が21稿目になるようです。この寄稿は、見知らぬ誰かに手紙を書き続けたような感覚がありますが、思えば、みことタイムズそのものも宛先のない手紙だったのかも知れません。そんなことを思いました。「終わり」という言葉はいつも何かしら憂いを含み、もの悲しいものですが、「何かの終わりは何かの始まり」。これまでのご縁に感謝しつつ、更にこのご縁を紡いで広げていきたいと思えます。

Posted by Hank Iwasa

あなたにとってMikotoとは？ #6 『すべてはここから始まった』

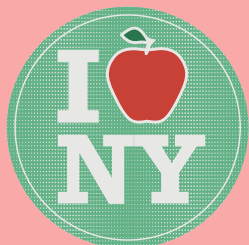
「すべてはここから始まった」です。
無くなってほしくないし終わってほしくない。
入塾してすぐNY塾にjoinさせていただいて、今も塾よりこちらのコミュニケーションの方がはるかに多く大切な時間。
終わりは始まりですから、また新たな時間を皆様と分かち合えたら嬉しいです。いつもありがとうございます。

Posted by Seiko Shimizu

あなたにとってMikotoとは？ #7 『多種多様異業種交流的勉強会』

自分の仕事の日常生活ではまず会わない多種多様な方々と一緒に出来る不思議な人間関係の場でした。振り返ると2020年「人間関係編」のグループ5人は全員「辰巳天中殺」。
学理的にまだまだな時だったので、お世話とおしゃべりが大好きな弁護士さんが情熱的に解説してくれた思い出があります。当時はコロナで現場仕事が全部止まり、国からも不要不急部類に入れられ時間が出来たので勉強には良かったのかもしれませんが。翌年の申し込み案内時、再受講費と同じ金額が振り込まれ、これは行けと言う事ね、と申し込みました。結果的には2回目に縁のあったみなさまと今もつながっているように感じるので申し込んでホントに良かったと思えます。住んでいる場所も年齢も学歴も職歴もまったくちがう人々が陰陽五行を元に交友が広がるってすごい。次はどんなページが来るかわかりませんが、何が来ても今この時を味わうそんな風を楽しみたいです。ね。
ありがとうございました。

Posted by Mariko Okabayashi



あなたにとってMikotoとは？ #5 『人生と学びの転換点』

2019年10月、NY塾1期生として学びのスタートの場について、今でも昨日のことに思い出します。アメリカには何度か来たことはあったのですが、NYは初めてで、街中を歩いている第一印象は本当に人種のるつぼだな、ということでした。映画やテレビの中でしか見たことがなかった建物や街角の風景を目の当たりにして心が踊り、“刺激的な街”という形容がぴったりでした。そして、来年もまた帝王学を広めるためにNYに来るんだ！と心に決めていました（残念ながらコロナで叶わず）。自分では全く自覚はなかったのですが、帰国してから複数の方に「なんか感じが変わった」と言われました。1週間程度の短い滞在でしたが、NYの街と人々のエネルギーを浴びて、私の中で何かが変わったのだと思います。そんな素晴らしい体験の場を作ってくれたMikotoですが、その後のコミュニティでも素敵な仲間との出会いあり、オンラインでの学びあり、本当に得難い時間を多く過ごし、たくさんの学びがありました。立ち上げをゼロからご尽力下さった由美子さんの類稀な魅力とリーダーシップ、あいさんの包容力と行動力がなければこの素晴らしいコミュニティは成立し得ませんでした。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。メンバーの一員になれたこと、とても幸せでした。みんな大好きです！！

Posted by Yuko Mizoguchi

あなたにとってMikotoとは？ #8 『世界はやさしさでできている』

2020年3月。入塾して2回目の面授で手にした帝王学スクールの案内チラシ。まだ右も左もわからない中、宣伝にいらしていた紫藤さんから、現地NYでの特別レッスンや学理テキストの配布があること、短期間ですぐに活用できるようになる実践的な講座であるとの説明を聞いて、車騎・龍高持ちでHigh-Dな私が反応しない訳がありませんでした。コロナで3回目の面授はありませんでしたので、まさに「タイミング」でした。講座ではオンラインの醍醐味も知ることができました。スタッフ皆様の企画力とファシリテーション力の賜物だと思っています。講座後の学び合いの場、コミュニティも、コロナ後の今では当たり前かもしれませんが、お陰でかけがえのないご縁もたくさんできました。みことTIMESの編集にも携わり、Mikotoから学んだことは計り知れませんが、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。Mikotoが大切に考える仁徳・慈愛からの世界平和。「世界はやさしさでできている」ことも教えていただきました。本当にありがとうございました。

Posted by Asako Igarashi

特集★あなたにとってMikotoとは？

あなたにとってMikotoとは？ #9 『虹の架け橋』

Mikotoを例えるならば、自分は登校拒否児だったけれど、遊んでくれた同級生がいる故郷、いつでも戻ることができる場所です。毎月Mikoto Timesへ写真を投稿することによりなんとか皆さんと繋がり、Timesを読むというルーティンは、私を日常の雑踏から原点に引き戻してくれました。自分の思いを多くの人と共有することが苦手な私に、写真投稿という光栄な役割を与えてくださったあいさん、本当にありがとうございました。関係者の皆様には心から感謝しております。今回の写真は、10月16日に撮りました。この虹は仲間との新たな架け橋であり、世界に平和をもたらすものと信じています。「偶然は必然である」
またお会いしましょう！

Posted by Takako Kawana

あなたにとってMikotoとは？ #11 『びっくりポン！のご縁』

陰陽五行？面白そう！と、友人の代理で参加したNY塾。帝王学という名前も知らず、西海岸のロサンゼルスから4440km離れた東海岸のニューヨークまで行く勇気もなく、オンラインしかもビデオオフでこそっと講義を聞いていた私に、4年後の今も繋がるご縁という全くの予想外の嬉しい体験をさせてくれたのがMikoto。「よそ者じゃない？入っていいの？」という躊躇や不安を吹っ飛ばす、とびっきりの暖かい笑顔とハートで誰をもウェルカムする素敵な人達がいる場。いつでも帰っておいでって迎えてくれる家族のような場。安心して素のままの自分でいられる場。そして名前や形が変わっても、ずーっと進化し続け存在し続ける場。繋がってくださる皆様と素敵なご縁への感謝の気持ちでいっぱいなのですが、言葉にしようとするとうどうしても上手くいかないの、エネルギーで受け取ってくださあ〜い！

Posted by Chisako Morino

あなたにとってMikotoとは？ #13 『自分らしく生きるとは？』

Mikotoに関わり始めたのは紫藤由美子さんに憧れ、そのようになりたいという気持ちからでした。自分に高い期待を抱き、紫藤さんになるべく、成長するために必死のパッチで努力しました。英語トレーニングは毎日25分間行い、大阪弁も克服すべく公共の場では使いませんでした。しかし2年間の奮闘の末、他人になることは不可能であることを受け入れました。一方で、「自分らしく生きる」メリットは何でしょうか？自分らしく生きると、自然で楽です。何をするにも力が抜け、楽なだけに楽しく、ポジティブになれて能力もアップし、汎用性も高いです。生粋の大阪人の私にとってコスパは大切な要素。紫藤さんを鏡にして、自分自身を受け入れ、自分らしく在ることの価値を知り、それが最高のコスパであることに気づきました。何やっても、わたし以外になりえない。誰もわたしを代わりにやれない。わたしの天職は、わたしです。

Posted by Ai Matsutani

あなたにとってMikotoとは？ #10 『井の中の蛙、大海を知る』

いつぞやのセッションでも話したのですが、私にとってのMikotoは大きな海です！Mikotoという海を通して、毎回色んな想いを巡らせて旅をしてきました。いつでもこの海に戻ってこれるという気持ちで、たくさん場所へ繋がることができたような感覚です。2019年の秋、とにかく行けば面白い体験ができるという謎の確信でNYへ行き、飛び込んだ自分が誇らしいです！いつもこの海で遊んでいたことに感謝しています。Mikotoの世界観である東方仁徳は慈愛ですが、その一歩は「関心」だと思っています。Mikotoは帝王学を通じて「関心」が世界を創造するクリエイティブな集まりです！

Posted by Ayaka Ikeda

あなたにとってMikotoとは？ #12 『完成を目指さないこと』

私はこれまで、人間は生きているどこかの時点で完成するものだと思います。中学生の頃お世話になった英語の先生、学生時代のバイト先のチーフ、社会人になってから憧れた先輩方…未熟な私から見ると彼らは、キラキラ輝いていて別世界の存在のように思っていました。とある機会から、新たな憧れの人物に出会い、2019年に私は算命学・陰陽五行の学びに入ることになりました。ここNYスクールで、私は、「人生の何処かできっと自分は完成形になれる」ということが幻想であったことを知りました。それは、講座でのグループワークの最中だったり、講座終了後に事後活動のメンバーに入れていただいたときだったり、あるいは深夜遅くに集まって温かいものを飲みながらの編集会議のときでした。みことTIMESを通じて出会う方それぞれのお人柄に触れ、誰もが悩み苦しみ、時には歓喜しながら、毎日必死で生きていることを知りました。優しく暖かい居場所でした。本当にありがとうございました。

Posted by Sayaka Yamaguchi

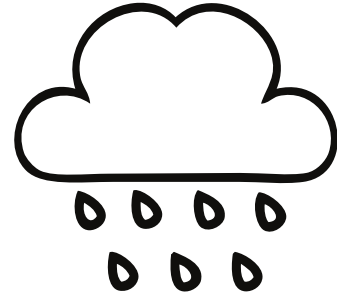
特集：あなたにとってMikotoとは？

特集を総括して～ロックンロール～

等身大で表現する時間が、一人一人平等に与えられ、下手くそでも、理解されなくても、なんでも言いたいことをシャウトする。説明してすんなりわかってもらえることに価値なんてない。自分から卒業する日まで、ロックンロールする。そんな世界一、地球一、安心安全な場を全員で創って見たのがMikotoです。

帝王学レポート

REPORT



みことTIMESは、帝王学を志すグローバルリーダーたち中心の活動や実践していること、また、講座修了生コミュニティの中で学びを深めている実践者による情報誌です。ここからは、実践者に投稿いただいた、連載コーナーをお届けします。

連載

ENGLISH PHRASES WHICH GIVE US COURAGE

Posted by Yoko Miyamoto

土曜日の朝にNYスクール修了生を中心に集まって「英語で寄り添う会」を開催しています。帝王学の教えに基づき、相手に「寄り添う」事を最優先させた英語の言葉の選び方や言い回しを共有しています。

この学びを続けていると、自分の捉え方・あり方が物事に意味を付けていることが分かります。

「帝王学」の教えより

<Unhappiness is Created by Yourself>

It is your values which define a bad event as "worst ever" or "could have been worse". Which word you use to describe an event is producing your thoughts.

Everything depends on how you perceive it. If you are continuously experiencing unhappiness change the words you are using which are creating your thoughts and feelings.

<不幸は自分が創り出している>

ある悪い事象を「最悪!」と捉えるのか、「この程度で済んだ。」と捉えるのかは、その人の価値観であり、その起因は言葉の与え方で決まる。

どのような物事も捉え方次第である。もし不幸が続いているのなら、その概念を創り出している言葉の与え方・在り方を見直すべきだ。



連載

茶道と陰陽五行 - 東寺 -

by Eriko Yamamoto



十月初旬に、京都の東寺に行きました。今年は、弘法大師空海が東寺で真言宗を立教開宗して1200年の記念の年で、通常非公開のところも、拝観できます。

東寺は、京都駅から、近鉄で一駅の東寺駅から徒歩すぐのところにあります。京都から、奈良へ一駅動いただけで、ここも京都?と思うほどの静かさでした。

幸運にも、境内の八幡宮で法要が行われていて、たくさんの僧侶が、護摩を焚き、御経を唱えていらっしゃる(般若心経も唱えていらっしゃいました)ところに立ち会えることができました。お寺の中に神社があることを不思議に思い、近くにいたお坊さんにお聞きしたところ、「神仏習合と言って、昔は一緒だったんですよ」と穏やかに答えてくださいました。本当はもっと色々あるのだと思いますが、わかりやすく答えてくださったのだと思います。「自分だけを正しいと思わないこと」という、今の私へのメッセージのように思えました。

連載エッセイ

カウンセラーから見える景色

～最終話～



Posted by Mayu Itani@Tokyo

心理カウンセラー／キャリアカウンセラー

ひとりひとりの「その人だけが歩く道」を一緒に探す時間を提供しています。

陰陽五行論が、よりクライアント様ご自身の人生の意味を色濃くするものになると実感しています。

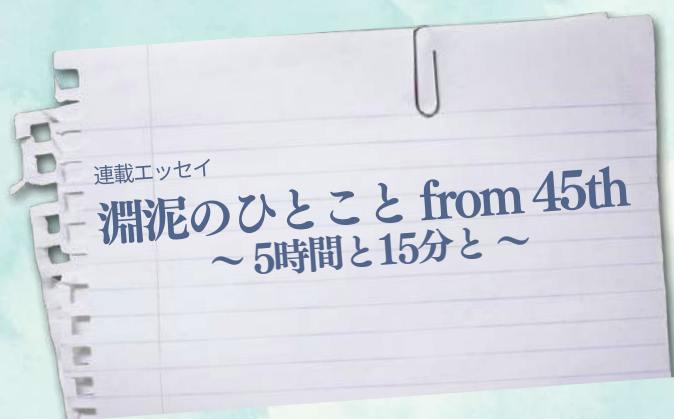
みことTimesをご購読のみなさま、創刊からお世話になり、本当にありがとうございました。「どう生きるか」を、様々な方向から考える、そんな冊子になっていたのではないのでしょうか。私は、世に影響を与えている諸先輩方が日頃どんなことを感じたり、行動したり、世の中をどんな風に見ているのかを知ることができて、一読者として楽しく読んでおりました。私のこのコラムも、何かプラスになるものがあればうれしいなと思います。

最終話は、「すべての答えは自分の中にある」どう生きたらいいか、どの道が正しいか、私たちは迷い、本を読んだり誰かの話を聴いたりします。でも、決断するのは自分なんですよね。どの本を選ぶかも、誰の話を聴くかも、実は自分で選んでいるわけで、深いところではすべて答えを持っているというわけです。最初は、どれが本当の答えかわからない・・・となるかもしれませんが、「今どうしたい?」と尋ね続けていくことで、それがわかりやすくなります。最初は「何食べたい?」という日常のことからやってみると、わかりやすいかもしれません。ぜひチャレンジしてみてくださいね♪

最後に、ちょっとご紹介をさせてください。去る9月12日に、電子書籍を出版させていただきました!「24時間を思い通りに使おう」という、タイムマネジメントの本です。

(Amazon : <https://www.amazon.co.jp/gp/aw/d/B0CHS99D2P/>)

読んでくださった方から「読んでから”時間がない”と言わなくなった!」というご感想をいただき、とても嬉しい限りです。もし、時間に追われていると感じられていたら、ぜひお手にとっていただけたらありがたいです。長い間、このコラムを読んでくださり、ありがとうございました。どこかでまたお会いできることがあれば嬉しいです。お元気で!



連載エッセイ

淵泥のひとつ from 45th ～5時間と15分と～



十月中旬、徳島で暮らす母に会ってきました。出先の関西からの帰省でしたが、往復五時間バスに揺られ、母と一緒にだったのは病院の面会室での十五分間のみ。でも、とても価値のある十五分でした。

昭和四年生まれの母は九十四歳。今年に入って姉が施設から引き取って一緒に暮らしてくれているのですが、前週、姉から「母が吐血した」との悲痛な電話。主治医に診てもらったところ大事ないとの別信があり安堵しましたが、なぜか前から決まっている関西行きがあり、しかも滞在中の土曜日には何の予定もない。母が「帰っておいで」と呼んでいるようでした。

病院は姉の家から車で約十分。最近拡張増築したようで、田舎には不釣り合いな立派な病院でした。見方を変えれば、過疎化で高齢化が進んでいることを示しているのかも知れません。

面談室に入って待つっていると、車いすに座った母が看護婦さんと登場。左手首には点滴。でもからだには力が感じられ、思っていたより元気な様子にほっとしました。そして、母は私の顔をじっと見つめて、いぶかしげな顔をしながらも「一志、だろ?」とひと言。もう、それで十分でした。ああ、ちゃんと自分のことを分かってくれている、有り難い、大丈夫だと。

母親が子供の名前を憶えているなど当たり前で、それを幸せとは何を言っているのだと思われるかも知れません。しかし、歳月は容赦なくからだの頭脳、そして記憶を奪っていきます。

「どこも痛くない。調子は悪くない」と何回も繰り返して、たわいもない話やちょっとしたしぐさにも笑いで応えてくれる母は昔と同じでした。子供が親を選んで生まれてくると言いますが、それが本当なら、思わず自分を褒めたくなくなるような命の有難さが心に広がった一日でした。

Posted by Hank Iwasa

大手機械メーカー勤務。大規模な開発プロジェクトに参画し、直近5年は米国オペレーションのヘッドを務める。8年前から陰陽五行論を学び始めてその奥深さに感銘を受け、学びを仕事に活かす一方、宿命鑑定師として人々の悩みや苦しみに寄り添う活動を続けている。昨年4月、日本に帰国。

マンダラと帝王学

～水性レポート～

Posted by Sayaka Yamaguchi

ナレーター・ファシリテーター・イベントプランナー・プロジェクトコーディネーター・コミュニティマネージャー。NICE日本国際ワークキャンプセンター理事。キャリアデザイン学修士。渡航国数23カ国、各地でNGO活動に取り組んできた。陰陽五行論の学びを社会課題への取り組みに生かすべく活動をスタート。

・マンダラ読書会・絵本編
毎月一回、グローバルコミ
ュニティでマンダラ読書会
を開催してきました。今回
は、総括編としてこれまで
作成したマンダラフレーム
を分類・分析しました。
・オーブンとクローズドの
分類
これまで読書会参加者とい
緒に作ってきたマンダラを
俯瞰して見てきた時、最初
に気づいていたのはその枠が開
放されているのかどうかと
いうこと。最初から質問項
目を設けた場合と、空欄に
しておく場合がありまし
た。空欄は自由度が高く、
参加者と「イマココ」を共
有できるライブ感を味わえ
ますが、逆に言えば再現性
が低いものとなります。
一方、クローズドな枠にも
とても高い意義を見出され
ます。作者情報などといっ
た細かな情報伝達や、共同
作業でリサーチを行うよう
なワークが履いている場合
はクローズドが必須です。
ですが、事前に決められた
ことだけを話す場となる
と、参加者の中には興ざめ
をしてしまう方もおられる
かもしれません。
・書籍で述べられたこと
と、意見の区分け
ある時から、意見と事実を
分けて書くような試みを行
うようになりました。マン
ダラを後から見直すことを
想定した時に、この区分け
は大変重要で、やもすると
マンダラだけを見ると本文
を誤解してしまうことがあ
ります。

算術学：陽占（人体図）

	親や目上	初年期
配偶者 パートナー	自分自身	兄弟 友人
晩年期	子や部下	中年期

読書会用マンダラフレーム07

意見		
要約抜粋 キーワード		
意見		
	タイトル	
意見		

書籍に出てきたキーワードから、
算術学の人体図に当てはめられるものを選び、
東西南北のマスを埋める手法

■これまでのフレームを分類すると、8種類に分けられることがわかりました。創意工夫を繰り返しながら、少しずつ改良し、現在に至ります。①備忘録的約録、②ワークショップ用ワークシート、③感想対話のグラフィックレコード、④一章で一つのマンダラ作成、全章通読、⑤読了者と未読者の意見交換「行き当たりばちり読書会」フレーム、⑥人体図的キーワードフレーム、⑦人体図的キーワードフレーム+意見枠、⑧マインドマップ、となります。
■9×9のマンダラが入れ子になっており、拡大・縮小すると新たな別のマンダラが現れるというパターンもまだまだ研究中です。こちらは、オンラインホワイトボードツールのmiroを活用し、作成していました。その他のマンダラフレームは、基本的にはGoogleスプレッドシートを使用しました。ツールそれぞれに魅力と限界があり、うまくそれらを活用する形で今後もデジタル・マンダラライフを進めていくつもりです。これまでご参加・ご協力いただいた方々へ深く感謝申し上げます。

■これまで絵本を題材に対話会を行ってきましたが、最終回の対話会では、「紙芝居」について、という興味深いテーマの課題になりました。今後も、マンダラフレームを活用しながら、対話をする場を持ち続けていければと考えています。

World Scopes

Paris, France:
Posted by Akiko Nakamura

帝王学 for Leadersのコミュニティには、世界各国に在住するメンバーが所属しています。このコーナーでは各国のレポーターから、トレンド情報や文化の違いなどをお届けします。

今年はよく海外とご縁があった。7月のイギリス ロンドン、10月のフランス パリ・スペイン マドリッド。

きっかけは日本酒 富鶴。日本酒は国酒とはよく言ったもので、海外展示会、商談会のサポートが国からただけでの渡航だった。今もこれからも、国に恩返しをしていくのはわからない。

そんな熱い日本への愛情の中、海外にいくと、現地にただよう想いやその中に生きづく人の想いに敏感になる。イギリスは紳士。フランスは食にもアートにも芸術。スペインは人情味。とかく、言語の壁があるので、交通機関をつかうのをさけて、基本、歩く。歩きまわる。その所為かもしれない。そのときの雰囲気。己の感覚。それがすべて。それが、今の自分に十分な異国との付き合いができる、コツなのかもしれない。

これからも海外に行くことが増えるが、全力で目の前の方におつくしすることを実践していきたい。





My Another Sky

リレーエッセイ

このコーナーでは、帝王学を志すリーダーたちの「大切な空」をリレー形式で紹介しします。初めて見るようであり、どこか懐かしい。胸がなんだか熱くなるような、そんな風景を切り取ります。

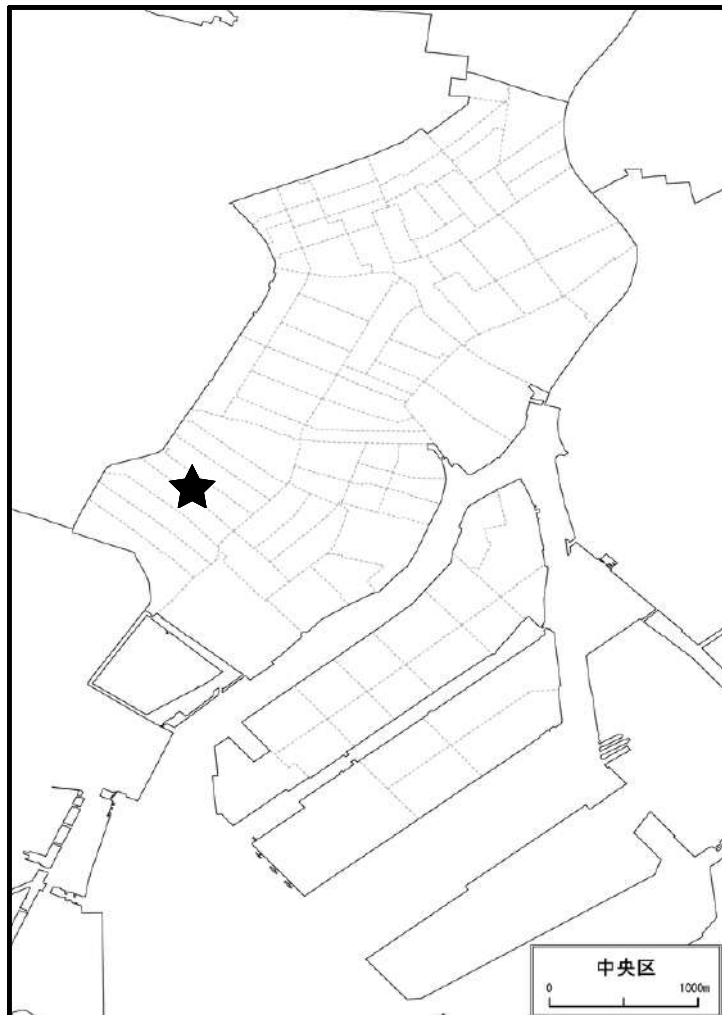
私のアナザースカイ 東京銀座

日本各地に「〇〇銀座」という名の商店街がありますが、私の第二の故郷は東京都中央区の銀座です。両親の先祖代々と親戚は皆、東京二十三区なのですが私の父だけ二十代で美しい海が広がる藤沢に拠点を移し、彫刻家として立身しその後母と結婚、銀座を中心に数々の展覧会を開催していました。その影響で私達家族の買い物や食事も常に銀座でした。子供の頃から銀座と藤沢を行き来していたので、銀座から受けたあらゆる影響は計り知れません。

一般的にアーティストの中でも彫刻家は生計を立てるのが一番難しいと言われているようですが、運と才能と努力の父の最期の仕事はウィーンの国賓としての出展でした。

そんな家庭環境に育ったのに、両親は絵や彫刻の道に進むことは許してくれずその類の習い事もNGでしたが、四歳で始めた音楽を通して人生の半分以上を音楽業界で、経営者となった今でも銀座にたくさんのご縁を頂き、何より街を歩くだけでも心が落ち着きます。

By Seiko Shimizu



私のアナザースカイ 東京銀座

コラム：五行を読み解く先にあるもの＜最終話＞

By Nobuyuki Shinkai

いつも御覧いただきありがとうございます。
これまでの連載を通して“五行”についてお届けしてきました。

私は「自然の姿・この世の姿を5つの要素に分けてその関係性を知り、その中で生き方を合わせていくと、自分の人生を好転させることができる」、そんなお話をしてみたくて、五行について触れてきました。

ところで「人生を好転させる」といっても、まずは自分のことをちゃんと知らなければ、改善することは難しいですね。
陰陽五行論はさらに学んでいくと、この点を解決してくれます。

この学問では人生に対して、先天的に与えられた“宿命”と後天的に変化していく“運命”という二つの要素に分かれています。
宿命とは自分の個性や才能、性格など、与えられた自分の本質そのものです。

この宿命は生年月日から算出していくのですが、算出結果は“干支”を用いて判断していきます。「子丑寅卯…」のあれです。

干支というのは、陰陽五行をわかりやすく表現するための記号であり、世間的には12種類と簡略化されていますが、細かく見ていくと、全部で60種類存在しています。

それぞれに陰陽と五行が掛け合わされていて、例えば、干支の違いによって、火の性質が強い人もいれば、水の性質が強い人もいますなど、五行のバランスの違いを見ることが出来ます。それがその人の宿命となります。

宿命がわかるということは、スタート地点で自分自身は五行の中でどれが弱点かを知ることが出来ます。
人生を好転させるうえで、これほど有利なことはありません。

このように「適切に自分を理解し、行動を変化させていく。」それを総合的に学べるのが、この学問の本当に面白いところです。

人生の第一歩目はまず自分を知ることから。
ここまで読んでみて、もし一体自分は何者なのか、もっと知りたいと思ったら、ぜひ“宿命鑑定”を受けてみてくださいね。

それではご覧いただきまして本当にありがとうございました。

編集後記：

いつも「みことTIMES」をこよ愛読いただき、心より感謝申し上げます。編集長であり、自称「Chief Happiness Officer (CHO)」の松谷あひです。このコミュニティは、己を知り、相手を知り、時代の流れを読もうとしている人々で構成されており、その居心地のよさは格別です。その理由は何でしょうか？陰陽五行論の学びの実践の場だけでなく、五行のバランスが取れることで、まるで大自然に癒されるかのような心地よさを感じているのかもしれない。

宿命上、何でも一人てこなしてしまうという傾向がある私が、編集作業を一人で担ってしまっていたとき、私を私以上に理解してくださる皆さんが心配してくれていることを感じました。ふと助けを求めたときの皆さんの超迅速な反応がこのコミュニティの真価を物語っていると思います。過度に干渉することなく、まるでリーダーで察知するかのようになりたいを馳せ合い、守り合っているメンバーたちの存在が、この場所を心地よくしているのです。

「みことTIMES」の終わりがどのような新しい始まりを迎えるのか、今は誰にも分かりません。私たちは龍高星の如く、破壊と創造を繰り返す集団です。更地から再び立ち上がり、時代の声に耳を傾けつつ、私たちが次に創造するものは一体何でしょうか。最後まで一緒にいたいただきまして、本当にありがとうございます。

編集部（五十音順）… 赤石京子、五十嵐麻子、小川亜由美、松谷愛、宮本陽子、山口紗矢佳、山本えりこ

2023年11月 癸亥月

生き方のポイント

陰陽五行では、11月8日(水)～12月6日(水)の1ヶ月を癸亥（きすいののしし）月と呼びます。癸亥を細かく見ると以下ようになります。

癸（き すい）＝大雨
亥（いのしし）＝冬の水

癸は大雨を表し、亥は冬の水を表します。亥の刻は22時～0時であり、そのため癸亥は真っ暗な中激しく降る冬の大雨です。目の前が見えないことから、癸亥は物静かで自己表現をあまりせず、心の内が見えにくく見えます。表面では見えにくいですが、内なる強さを秘め、その聡明さで、人々の中で活躍していきます。水気が多いため、流れる先がなければ腐ってしまうため、自分の中に留めず想いを言動にしていくことが大切です。このことから、多様性を受け入れ、自分らしさを表現することを意識して過ごしてみたいかがでしょうか？

- 癸亥のポイント
- ◆表舞台に立たなくとも、忍耐強く人に尽くすこと
 - ◆本来の聡明さを活かし、冷静に判断すること
 - ◆多様性を受け入れ、自己表現をすること

陰陽五行は自然の事象を元に考えられています。ポイントを意識することで、自然との調和、運気の流れを感じてください。
皆さまの日々が豊かなものとなりますように。

2021年5月の創刊準備号発行から2年半。みことTimesをご愛読くださりありがとうございました！

